仁淀川町立池川小学校

学校だより

Ikegawa Elementary School

～第２号～令和３年（２０２１年）５月６日（木）

仁淀川町立池川小学校　文責;川添貴生
ＴＥＬ（０８８９）３４－３０２５
ＦＡＸ（０８８９）３４―３０２６
ikegawa-e@town.niyodogawa.lg.jp

「初めての気持ちを大切に」

子ども達にとっての４月は、新しい学年・教室・学校、そして先生との出会いがあり、少し緊張して、でも少しずつ打ち解けながら新しいかかわりが増えていった１か月だったようです。

入学式の次の日からは早速１人で登校の１年生の緊張感は相当なものだったと思います。しかし、その緊張感をほぐしてくれたのは６年生でした。教室の前で「おはよう」と出迎える６年生、何かあったらすぐにお世話をして１年生の緊張を和らげていました。そして、そんな６年生に「ありがとう」をきちんと言葉で伝えている１年生の姿もありました。上履きに履き替え靴のかかとの部分を靴箱の端に揃えて置くことを丁寧に教えていた２年生の姿もありました。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止を意識したお世話の仕方になっていますが、優しい声や態度がとても微笑ましく、１年生に寄り添ってお世話をしている池川小学校のリーダーである６年生はとても頼もしいです。また、各学年の教室での様子にも頼もしさを感じました。「あれ、教室には誰もいないのかな。」と思い、教室をのぞいてみると、背筋をぴんと伸ばした姿勢で先生の話をしっかり聞いている学級、凛々としたいい声で本読みをしている学級、先生にいろいろ質問をして笑顔と笑い声の学級、算数や国語の時間自分の考えをみんなの前で堂々と発表している学級がありました。どの子ども達の眼差しも、これから始まる学年への期待があふれたものでした。この子ども達のがんばろうという気持ちを保てるように、私達教職員は一丸となって、安全で楽しい学校の環境を整えていかねばならないと改めて強く思いました。保護者の皆様には引き続きたくさんのご協力をお願いいたします。

おめでとう！こども高知新聞掲載

全校で取り組んでいる、こども高知新聞記者だより。昨年度末には大きな賞をいただき、こども達は受賞を励みに、今年度も取り組んでいます。「記者だより」「イラスト」「レッツ！五・七・五俳句」。教室で書いたもの、家で書いたもの、作品をどんどん投稿しています。(出さないと載りませんね)

裏面に「表現キラリ賞」受賞理由の記事を掲載しています。子ども達の「心」が記事を通して新聞社に伝わっていることに感激しています。お読みください。

高知新聞に掲載されたのは、学校だよりで紹介していきます。

裏面も見てください

読 2020年度こども記者年間表彰

表現キラリ賞

仁淀川町池川小

読む人が楽しめるように

ぼくは学校が始まって、楽しくなってきました。学校が始まらなかったら、毎日自分の家で勉強しなければいけないから、さびしかったです。

けど、自しゅく期間中、高知にすむみんなが新がたコロナウイルスにかからないように注意していたから、学校にくることができました。「高知の人たち、ありがとう」と感しゃしたいです。

だから、学校がもっと楽しく感じてきました。やっぱり、家で勉強するより、学校で勉強する方がいいです。これからも高知の人みんなが注意を続けてくれたら、コロナにかかりにくくなって、学校でも安心して勉強できます。高知のみなさんで協力しあって、コロナをのりきりましょう。そして、みんながけんこうで毎日をすごしていきましょう。

（4年、片岡晃雅記者）

5月29日けいさい

「みんなのおかげで取れた！」と受賞を喜ぶ4、5年生のみなさん（仁淀川町の池川小）

「スキップしたくなるほどうれしかったです」（4年、川村仁香さん）、「おばあちゃんのこけたすがたは、まるでダンゴムシのようでした」（4年、杉本咲優さん）、「太かったタケノコもかわをむくとやせっぽちになりました」（5年、山本彩永さん）―。

仁淀川町の池川小学校の記者だよりやイラストは、キラリと光る表現がいっぱい。すぐに場面が想像できて、中にはクスッと笑ってしまうものもあります。「じいちゃん、ばあちゃんが読んでも分かる、みんなの心が温かくなって楽しめるように書いた」「イラストは、見た人が季節を感じられるように」と中心になって取り組んだ4、5年生たち。相手を思う気持ちが、すてきな表現につながっていました。

その思いが特に表れていたのが、4年生の片岡晃雅さんがつづった「高知の人、ありがとう」。新型コロナウイルスのえいきょうで休校だった学校が再開。喜びだけでなく、高知の人への感謝ときらなる注意をまっすぐな言葉で伝えました。

新聞にのって自信をつけたり、家族や先生にほめられたり。そんな4、5年生の取り組みの輪が全校に広がり、1年間に届いた記者だよりとイラストは計1007本。31本がけいさいされました。

「文章力をレベルアップしたいから、来年も出すっ！」「イラスト用紙、こっそり持って帰ろう」。子どもたちは今回の受賞を力に、2021年度に向けてもう走り始めています。

（野村 圭）

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

すがすがしい気持ちで

★仁淀川町・池川小★

4月7日、私は早起きをして準備しました。ドキドキした気持ちをおさえながら、2週間ぶりにランドセルをせおって、「いってきます」と大きな声で家を出ました。鳥が空を飛ぶようなすがすがしい気持ちで、学校へ行く道を明るい歌を歌いながら風のように走りました。

着任式では、ひさしぶりにみんなの顔を見てうれしい気持ちになりました。それに、自分が4年生から5年生になったことが何よりもうれしかったです。

式が終わった後も心がバクバクと波打っていました。「今日から1学期やねえ」という友達の言葉に、（5年生としての1学期なんだ。新しいスタートが切れたんだ）と思いました。これから上級生の一員として、がんばっていきます。

（5年、川村仁香記者）

★仁淀川町・池川小★

土曜日に、二分の一成人式がありました＝写真。最後に、お母さんやお父さんに「ありがとう」と言って、手紙をわたしました。そこまでは練習どおりでしたが、先生が大きな手紙をもってきました。練習では、一言も聞いていませんでした。

手紙をあけてみました。「10さいの優花へ。ママは優花のために、せいいっぱいできているかな？　優花のママとしてちゃんとできているかな？」。その言葉を見て、なみだが出ました。はずかしかったので、ぐっとがまんしました。

そのあと、先生がビデオを流しました。みんなの赤ちゃんのころの写真や、この10年間の思い出の写真がたくさんありました。それだけでも感動するのに、ビデオを流している時の曲が、すごく心にしみて、もっとなみだが出ました。

「どうだった？」と母に聞いてみると、母は泣きながら、「すごかったし、よくがんばったね」とほめてくれました。その一言がとても、とってもうれしかったです。

（4年、下元優花記者）

◆学年は2020年度のものです

なみだがとまらない

にぎやかな5月

山中悠維さん（仁淀川町・池川小5年）